

松浦浩子教授追悼号によせて

経済経営学類学類長 井 上 健

2022年12月24日に松浦浩子さんが逝去されました。その1週間前から入院されており、何とか回復されることを願っておりましたが、その願いはかないませんでした。12月7日に開催された教員会議でお会いした際には、特に変わった様子を感じることがなかったため、そこから20日も経たないうちに起きた出来事に、大きく動揺したという記憶が残っています。最後の教授会の際には、英語教育研究における統計的手法の変遷というテーマで共同研究を行うことについて、意見交換をしていました。その段階では、まさかこのような事態になるとは想像もしておらず、亡くなったという事実をつきつけられても、中々受け入れられない状態にあったように思います。

松浦さんは都留文科大学文学部英文学科を卒業後、イリノイ大学大学院修士課程を1985年に修了し、嘉悦女子短期大学助教授などを経て、1998年に福島大学経済学部に着任されました。研究については専門外なので業績内容について適切な評価は行えませんが、福島大学着任後に限定しても、30本以上の論文を執筆されており、英語教育分野における研究の進展に大きく寄与されてきたと考えられます。個人的には、松浦先生とは研究の遂行に際して必要な統計処理に関わって、意見交換をさせていただくことがしばしばありました。改めて調べてみると、初めて意見交換の機会を持ったのは2008年の5月のことでした。そこから、2022年2月までの間で延べ13件のトピックについて意見交換の機会を持つに至っています。私自身、元々、統計理論が専門であったため、統計分析に関する事例に非常に疎かったのですが、松浦先生の研究を通じて、統計分析の事例についての知見を広げることができました。この間のやりとりの中で強く実感したのは、松浦先生が自らの研究を遂行する中で、統計分析に関する知識を常に磨き続けてきたという点です。どの分野においても、研究データの分析に関わる統計処理については、少なからず、進化しつづけており、それまでと同じやり方では研究結果が認められないという事態がしばしば発生します。そのような事態に対して、松浦先生は、常に新しい知識を取り入れながら、適切に対応され、研究成果を生み出してきました。私自身を振り返ると、新しい分野のキャッチアップについては、不十分とは言えず、見習わなければと何度も感じました。

教育者としても立派なお仕事をされてきたことは、多くの方がご存じであると思いますが、個人的に最も印象深いのは、ムードル基盤の英語学習プラットフォームを構築し、学生教育に活用していた点です。大学にも学習管理システムはありますが、個別の学習課題の設定や実施状況の管理を行うには、十分な機能を有しているとは言えないと感じています。私自身、統計学に関する学習プラットフォームの構築を志した時期もありましたが、構想のみで終わりましたので、松浦先生が外部サーバを借りて運用しているという話を聞いた時には、非常に驚きました。教育の面においても、わが身を振り返る機会を与えていただいたと感じています。

2023 年 4 月からは特任教員として、引き続きご活躍いただけることを期待していました。その思いはかなわなくなりましたが、松浦先生が実践されてこられた高い水準の研究活動、教育活動を強く意識し、研究者として教育者として、先生のご遺志を受け継いでいかなければならないと考えています。

ここに心からの哀悼の意とともに、大いなる経緯と感謝の念をこめて、『商学論集』の松浦浩子教授追悼号を捧げます。